

澁谷審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年10月20日（月）18：30～18：50

場所：内閣府記者会見室

【冒頭説明】

25日からはじまるシドニーでのTPP閣僚会合に先立ち、各国の首席交渉官や分野別交渉官がキャンベラで準備のための協議を行っているため、概況についてご説明する。キャンベラでの会議自体はホスト国である豪州政府が公式に発表していないため、本来こういう形でご説明するのめどうかというものはあるが、我が国としては厳しい制約の中で交渉の状況についてはなるべく丁寧に説明したいという趣旨で、あくまでも公表されている閣僚会議の準備状況という形でお伝えするもの。従って、これまでの首席交渉官会合のブリーフィングよりはやや概略的になることをお含み置きいただきたい。

鶴岡首席交渉官は18日にキャンベラ入りし、昨日19日には2か国の首席交渉官とバイの協議を行った。昨日協議をした2か国とは、近いうちにどこかでTPP首脳会議を開催するとすれば、今回の閣僚会議は極めて重要だという認識を共有し、閣僚会議に上げる項目を極力減らすように努力しようという方向で一致した。

本日は、現地時間の朝9時過ぎから各国の首席交渉官が集まり、会議が始まった。現地時間の夜7時頃まで会議を行ったと先ほど報告があった。本日は主としてハノイでの首席交渉官会合の宿題を片付けることに専念したようである。いわゆる難航3分野以外の分野についての宿題が、数としては各分野数個ずつ残っており、9月から今月の前半くらいまでかけて、それぞれの分野においてこだわっている国が意見を出すという宿題が出ており、それを踏まえて、課題を収束させるための議論が行われた。内容的には、注釈の書きぶりなど、非常にテクニカルな論点である。本日からかなり長い時間行ったが、それなりに整理が行われたものの、ほんの若干論点が残っているようであり、キャンベラにいる間に、こだわっている国同士で処理することとされた。

同じくキャンベラで、分野別作業部会も開催されており、本日までには国有企業、投資、原産地規則等5つの作業部会が始まっている。知的財産や環境は明日から始まる予定。物品市場アクセスの交渉官レベルでの各国同士のバイの協議も今日から開始されている。これはまだ始まったばかりなので、MAの状況は、水曜日のブリーフィングの際にはお話ししたいと思う。鶴岡首席は本日の昼と夜、昨日とは違う2か国の首席交渉官とバイを行った。

【質疑応答】

(記者)

大江首席交渉官代理とヴェッター首席農業交渉官との会談は行われたのか。

(澁谷審議官)

まだ行われていない。今週後半に行われる予定。

(記者)

大江首席交渉官代理と他の国とはバイ会談が行われたのか。

(澁谷審議官)

昨日今日、数か国と行った。

(記者)

鶴岡首席がバイ会談を行った2か国とは、閣僚会合に上げる論点を減らす以外には何を話しあったのか。

(澁谷審議官)

ルールの残された論点について、具体的な話をしたようである。

(記者)

首脳会議を開催するならという話をしたとのことだが、そういう前提は今までなかったのか。

(澁谷審議官)

秋に首脳会議を行うというのは、何となくみんなの前提となっていたもの。ただ、具体的な日時や場所は今でも何も決まっていない。

(記者)

難航3分野以外の宿題については、もめている国同士で調整を行うことになったということか。

(澁谷審議官)

然り。明日からいよいよ難航3分野に入ると思う。

(記者)

難航3分野以外にも閣僚に上げる論点があるのか。

(澁谷審議官)

数えると結構なリストになるようだ。特定の国だけがこだわっている課題もあるので、おそらく全体で議論するよりは、バイの協議や少数国での調整となる可能性もある。全部を全部、全員で議論する必要はないのではないかという方向で整理されているようである。

(記者)

それによって閣僚に上げる項目が減るという期待はあるのか。

(澁谷審議官)

それが今週の準備の狙いである。

(記者)

首脳会議に向けたモメンタムというか、閣僚会議に向けた準備作業としての大事な会議として、何か雰囲気伝わってくる感じはあるか。

(澁谷審議官)

これまでAPECに合わせて毎年首脳会議をやっているので、首脳会議は今年もやるだろうという前提で、首脳会議が近くあるとすると、おそらくシドニーの閣僚会議はその内容を整理する、ある意味最後のチャンスであるという認識は共有されている。

(記者)

明日から難航3分野について首席交渉官同士で議論が行われるとのことだが、目指すべき目標は。

(澁谷審議官)

閣僚に上げる論点を極力絞り込むこと。

(記者)

年内合意を目指すという話は出ているのか。

(澁谷審議官)

少なくとも今日12人が集まった会議では出ていない。APEC云々という話も特段出ていない。想像だが、まだ準備のための協議は始まったばかりなので、明日から難航分野に入るが、その様子を見て今後の進め方等の議論をするのではないかと思う。

(記者)

「TPP首脳会合をやるならという前提」という言い方は、今までなら首脳会合の開催は自明の理だったと思うが、そこまでは思っていないということか。

(澁谷審議官)

少なくともAPECには12か国全部入っているので、首脳会議をやるかどうかはともかく話題には出るだろうということも含め、毎年必ずTPP首脳会議は何かの会議に合わせてやっているということは事実。ただ、皆さんが何月何日に首脳会合をどこでやるという記事を書くことに一生懸命になっているので、まだ何も決まっていないということを強調する言い方をしたもの。

(記者)

本日開催された5つの作業部会の残り2つは何か。

(澁谷審議官)

繊維と金融サービス。

(以上)